

調査をまつこととしてとりあえず小野市での産の記録報告をしておく（9月17日も調査したがネクイハムシ1♂を得たのみであった。場所は山田町の池であった）。

(MAY 1988)

神戸市内のムネアカセンチコガネ

(兵庫県甲虫相資料・217)

高橋 寿郎

1988年7月25日六甲山上の道路上から（凌雲台付近）（多分電燈に飛来したのではないかと）蜂谷幸雄氏が本種即ちムネアカセンチコガネ *Bolbocerosoma nigroplagiatum* (Waterhouse) の1♀を採集され御恵与下さった。戦前六甲山に本種は多くいるとの記録もあつたりしたのであるが戦後全く採集記録が見られなかった種でありまだ元気で棲息していることが確かめられて大変喜んでいる。

そこで神戸市における本種の今迄の記録を一度眺めて見ることにした。

本種は C. O. Waterhouse により日本（長崎）、朝鮮を産地に1875年 *Bolboceras nigroplagiatum* として記載されたのである。（Trans. ent. Soc. London Part. 1, 1875, p.96-97）（標本は♀で♂は無かったようである）

1895年に G. Lewis は東京、横浜、神戸。普通ならずとして記録された（Ann. Mag. Nat. Hist. Ser. 6, Vol. X VI, p.385,1895）。

これが本種を神戸から記録した一番古いものになる（残念ながらデータが無い）。

1933年の関 公一氏による“御影町附近産の甲虫目録”（昆虫界 Vol. 1, No. 3, p.251-253）の中には出てこないが1934年の“大阪・神戸附近の金亀子虫”（昆虫界 Vol. 2, No. 9, p.308-313）の中では“御影町に在る後井芳介氏邸の電燈に飛来せり、稀なり”と記録された。これが邦人による神戸市からの初めての記録になるかと思う。

1935年竹中眞一氏は須磨鉢伏山麓明石郡垂水町下畑（現垂水区下畑町）で燈火に飛来した2♂（8-VIII-1931,17-VIII-1933）の記録を発表された（昆虫界 Vol. 13, No. 13, p.99）。

同じく1935年矢野文彦氏は六甲山上で3♂3♀を採集したと記録（内1♂♀は燈火に飛来したもの、

他のものは地に穴を掘りつつあったとのこと)。コンクリート上で自動車のため踏みつぶされているのがかなりあったとも記してある。詳しいデータが無くただ夏と言うだけでいささか不親切な報告でもある(昆虫界 Vol. 3, No.17, p.329)。

1941年増田 猛・橋本直也氏は摩耶山から(一中附近の昆虫, p.32) “燈火に飛来せるを得るのみ未だ糞中で得ず”と記している。これもデータがついていない今一つ不親切である。

以上が筆者が知る本種の神戸市での記録の総てであり、いずれも戦前のものばかりである。戦後本種の神戸市からの記録と言うものは筆者残念ながら見たことがない。或は見落としているかも知れないのであれば御教示頂ければ幸である。

戦後の本種の記録は未発表であったが筆者の手許に次の標本がある。即ち燈灯に飛来したと御影町の吉阪道雄氏が採集御患与下さった1♂(29-X-1956)(この標本は鳥と自然, No.38, 1985に図説した)。筆者自身が教育植物園の地上を歩いていたのを採集した1♂(9-VII-1961)があるがいずれも可成り古いものである。今回の蜂谷氏の採集は久し振りのものである。

ただ兵庫県下での記録と言うと。

川西市雲雀ヶ丘[後藤, 1955]。三田市志手原[三木, 1977]。氷上郡黒井, 市島[山本, 1958]。出石郡但東町口藤[高橋, 1962]。城崎郡日高町神鍋[高橋, 1976]。美方郡村岡町大笹(鉢北高原)[谷角, 1987]等があり谷角氏のもは新しいがその他の記録は割合と古い。

本種の生態については和田 薫氏の報文がある(昆虫学評論 Vol. 39, No. 1, p.95-100, 1984)。横浜市内での観察であるがこの種は古い乾燥した牛糞を幼虫の餌として利用しているということがのべられている。やはり牛糞があれば本種の棲息は考えられる。神戸市内、六甲山系での牛の飼育というものが可成り少なくなっているからこの虫との出会いも仲々大変だと考えている。

(AUG. 1988)

(付記)

脱稿後東京の岩瀬一男氏からムネアカセンチコガネの学名に関する分類学的文献を御教示下さると共にそのコピーを送って下さった。即ち1973年 G. V. Nikolayev がムネアカセンチコガネをタイプとして *Bolbocerodema* 属を創設された(Ent. Rev. Vol. 52, No. 4, p.548)。ところが1979年 J. Krikken はこの属を *Bolbocerosoma* 属の亜属として取扱っている(Zool. Med. Deel. 54, no. 3, p.35-43)(そしてムネアカセンチコガネの検視標本は日本各地産26♂35♀とありその中に Hiogo 産もふくまれている。ただしデータはついていない)。

日本にはこの属の種はこのムネアカセンチコガネ1種しか産しないがもっと近似のこの属の種を多く見なければこの属の取扱いが妥当かどうかはよくわからない。

上記文献を御教示並びに御送り下さった岩瀬氏に厚く御礼申しあげる。